

本校における ESD 活動

第 3 分科会（工業教育の活性化）

岐阜県立大垣工業高等学校 佐久間英謙（教務部）

1. はじめに

現代社会は、あらゆるものがインターネットに接続されて情報のやり取りを行う IoT や、人工知能の進展など、急速な技術革新は我々の生活や働き方に劇的な変化をもたらしています。このような時代に社会で活躍するためには、知識や技能を身に付けるだけでなく、それらを活用し、課題を発見し解決する力を養うことがますます重要になると言われています。また、高度情報通信網と物流の発達により、地球上の全ての国々が密接に関係し、優れた商品が市場を席卷したり、ある国の政情が瞬く間に世界中の政治経済に影響を与えたりすることが増えています。本校では、世界に通用する工業技術者として生徒が成長するためには、「チャレンジ力」「コミュニケーションスキル」「課題解決能力」の三つの力を育成しなければならぬと考え、本事業を実施することにしました。そして、これらの力を育成するために、「海外インターンシップ」「課題解決能力の向上」「プレゼンテーション能力の向上」「英語力の向上」を 4 つの取組の柱として、事業を展開しました。

高 2017 大工グローバルエンジニア育成プロジェクト



2. 大垣工業が目指す生徒像（教育目標）

●大垣工業高校の使命

- ・地域産業の発展を支える産業人材の育成
- ・グローバルな視点で考え行動できる人材の育成
- ・地域社会に貢献できる人材の育成

●教育目標

- ・誠実にして強くたくましい心と身体の育成
 - ・心豊かな人間性と確かな知識・技術の習得
 - ・創造性に富む実践的な産業人の育成
- ⇒「技術者たる前に良き人間たれ！」

3. ユネスコスクールへの道

- ・平成 25～27 年度
「県立高校改革リーディングプロジェクト推進事業」(グローバルエキスパート育成事業～世界を元気にする技術者を育てる～)

- ・平成 28 年度
翌年度の「専門高校生国際化推進事業」に向けた計画立案。ユネスコスクールへの申請を検討や海外インターンシップの継続

- ・平成 29 年度
「専門高校生国際化推進事業」(大工グローバルエンジニア育成プロジェクト～大工から世界へ～)

- ・平成 30～令和元年度
「専門高校生地域推進連携事業」

4. 実施対象と教育界や産業界における現状、課題

全学科を対象に実施し、実施内容により希望者、クラス、学年、学科に分かれて実施する。生徒たちが就職する多くの地元企業や国内企業は海外に進出しており、商品の輸出や海外赴任はもはや当たり前となっている。国内在留外国人も年々増えており、調和のとれた社会づくりのために、生徒・職員共に正しい国際感覚を身に付ける必要がある。本校はこれまでに「県立高校改革リーディングプロジェクト推進事業」を活用し、海外インターンシップなど生徒の国際感覚を磨く取り組みをしてきた。今後も社会のニーズに見合う人材を育成するため、いかに継続的にグローバルエンジニア育成事業を実施していくかが本校の課題である。

5. 本校の特色ある ESD 活動内容

- (1) 地域貢献活動
- (2) 環境保護活動

(3) 国際交流活動

6. 具体的な内容

(1) 地域貢献活動

- ① 大垣氏柿の木荘訪問
- ② テクノラボ事業
- ③ 元気ハツラツ市（毎月開催）などの大垣市主催のイベントへの出店

(2) 環境保護活動

- ① 地域清掃活動
- ② 大垣のお祭り、イベントでの駅前周辺の清掃活動

(3) 国際交流活動

- ① 海外高校生との交流
- ② 海外インターンシップ
- ③ Skype による海外との交流

(4) その他の活動

- ① 国際課題に目を向ける学習



- ② 課題解決能力を育てる学習
- ③ 自己表現能力を育てる学習
- ④ ペットボトルキャップ回収で途上国の子どもたちにポリオワクチンを寄付

世界の子どもたちを救おう！

**ペットボトルキャップ2キロ(860個程度)
が1人分のワクチンになります。**

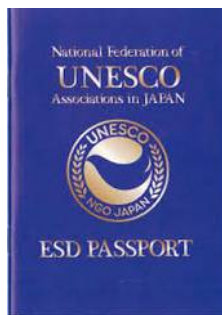
Thank you!

小さなことから社会貢献しませんか？

ペットボトルを飲み終えたら、**キャップをさっと水洗い**して回収袋に入れてもらえるとありがたいです。
(汚れたキャップは引き取ってもらえません)

インター・アクト国際青年会

- ⑤ ESD パスポートを活用したボランティア活動



←「ESD パスポート」

7. まとめ

社会のグローバル化は加速度的に進んでおり、日本人の海外進出や外国人の日本訪問はより増加していくことが考えられる。地元企業も同様であり、就職希望者が大多数である本校生徒にとって、卒業直後に直面する現実である。変化の激しい社会を力強く生きていくために必要な能力を身につけさせる教育が今後も必要である。

これまで、実施した各事業は教科横断的な学び、外部人材を活用する開かれた教育課程、主体的で対話的な深い学びなど、新学習指導要領で求められる全てのキーワードに関連している。一時的なイベントではなく、新教育課程に組み込み、効率よく効果的な目標達成に向けた教育が実現できれば、本校がより魅力的な学校になると思われる。

新しいことに挑戦していくことに抵抗を感じる生徒が多い反面、一度きっかけを掴むと目を輝かせて意欲的に取り組む生徒も多い。これからも全職員が生徒を後押しし、何事にも自信をつけさせることが必要であると強く感じる。この様な取り組みを行っていくことが学校の変化につながるものであると認識していきたい。



「大垣祭りLEDゆらぎ」新聞記事